

どきどき・わくわく・きらきら

たんぽぽ組 ちゅうりっぷ組

今日はマイクロバスでお出かけだ！沢山の雪、どんな雪遊びが出来るかな。

もう少しで年長さん、特別なお出かけ。たのしみ。

わくわく がとまらない！だって年中さんだもん！！

そんな子ども達の様子をお知らせしま～す。

★雪遊び（AONE-MATOKA）



廃校になった小学校を利用して作った施設です。

みんなを待っていた
真っ青な空。

施設で身支度を整え
さっそく外へ

沢山の雪に大喜び。
雪合戦、雪だるま…
思わず匍匐前進！？



スタッフの「すけさん」「やまちゃん」が子ども達と遊んでくれます。すけさんの話術でたちまち集まる子ども達。さあ、雪遊びだ～!! 喜ぶ子ども達に「さあ、出発するよ」の声。「えっ?! ここじゃないの?」きょとんとする子ども達。

★これが本当の雪遊び！



建物の後ろには、たっぷりの雪、雪、雪。

すけさんの周りで遊び始める子ども達。



すけさんと危ない場所の確認。

「屋根の近くにいと危ないです。

雪が急に落ちてくると埋まってしまう。」

その話の最中に屋根から滝のように雪が落ちてきました。

その迫力に声も出ない子ども達。「さあ、出発！！」どんどん進むすけさん。



あの、そちら何も無いのですが………そうです、何も無いのです。雪と木だけ。

と、思ったらそこには自然が作った雪の滑り台が！！
子ども達はあっという間に、斜面を滑り落ちて行きます。



お尻で滑ったり、
転がってみたり・・・。



大胆になっていく子ども達。



倒木に登ってみたり、
雪玉、雪だるまを作ってみたり。



林の奥に進んで行くと
もっと険しい斜面が出現。



降りたなら、当然登らなきゃならない。

もちろん、階段なんてありません。



子ども達は何度も何度も
登っては、降りてを繰り返しました。



階段もない雪の坂。あるのは地面から生えている枝だけです。それだけを頼りに、手に、足にありったけの力を込めて身体を持ち上げていきます。必死の形相。必死に登った後に待っているのは最高に楽しい体験。何も無いからこそ、生まれる力と喜びが子ども達の顔にあふれていました



このひとつ括みに
気持ちが入ります



あと少し

掴んだけど上がれな〜い





残った時間は元校庭だった
場所でそり遊び。





もっと遊びたかったけど、そろそろお昼。
お握りと温かい豚汁。



お腹ペコペコ。あっという間に
完食でした。この笑顔。



お休みの後、子ども達に何をして過ごしていたか聞くことがあります。
「先生、あのね！」子ども達が目を輝かせて話してくれるのは、決して特別な事ではなく、素晴らしい物があるわけではなく、心が動いた時の話です。
どれだけ一生懸命に行動したかということかもしれません。何も無い雪の斜面で
「遊びたい！」その一心で過ごした時間は大変な事の後には楽しいことが
待っている事を子ども達に教えてくれた一日となりました

